

保健室のエスノメソドロジー研究——「相談」の社会的構成——

秋葉昌樹(東京大学大学院)

(1).はじめに

本発表の目的は、中学校保健室における養護教諭の「相談」活動を、エスノメソドロジー(EM)現象として呈示する(demonstrate)ことにある。

1970年代以降、校内暴力、苛め、不登校、怠学、高校中退等々、学校の中でさまざまな病理的問題が顕在化しはじめたが、それとはほぼ時を同じくして、保健室が非行生徒のたまり場になっているなどと問題視する指摘が相次ぎ、保健室封鎖などの例がマスコミを賑わすようにもなった。ところが特にここ二、三年養護教諭の相談(カウンセリング)が問題の解決に効力を発揮すると言われるようになってきた。熱心な養護教諭たちは子供たちの心身がいかにも蝕まれているかを切々と訴え、自分たちの実践によっていかに立ち直ったかといった実践報告(体験談)やそのための処方箋を発表するようになり、呼応するように文部省(1991)の養護教諭に対する質問紙調査も行われている。しかしそうした文献では、保健室における相談が実際に行われる際の仕組を明らかにしてはいない。

社会学的研究としての本発表の関心と目標は、保健室で相談が行なわれているというとき、保健室の相談を具体的に成り立たせている仕組を明らかにすることである。つまり、これまでEMが目撃してきたのは「さまざまな出来事が社会的に組織された行為や手続きによって構成される」(D.サドナウ,1967:(訳書)19)際の仕方であると言ってよいのだが、本発表においても同様の観点から保健室における相談を再特定化(re-specification)するということである。

(2).エスノメソドロジー(EM)のパースペクティブ

周知のとおり、今日EM研究の成果とインパクトは単に社会学に留まらず、教育、司法、フェミニズム、言語学、数学、芸術、自然科学等多岐に

わたっている(Garfinkel,1991:14-16,etc.)。しかし同時にそうしたEM諸研究が持つ理論上(EM≠調査法(方法論))の独特のスタンスには、伝統的な理論的立場に立つ社会学研究者から、さまざまな形で誤解・曲解され続けてきた経緯が随伴しているのである(Sharrock&Watson,1988;Garfinkel,1991;Garfinkel&Wieder,1992;山村,1982etc.)。独特の手法と記述を以って社会秩序の再特定化を試みてきたEM諸研究に共通する視座の核心に位置するのが以下に説明する「注釈する実践(glossing practice)」である。

「注釈する実践」とは、会話がそのつど注釈(gloss)となり、会話の背後に隠れている意図・動機など(=幽霊のような実体(ghostly entities)としてEMでは想定しない;Lynch,1993)とは無関係の水準として相互行為の系列上に出来事を叙述(account)していく仕組である(Garfinkel&Sacks,1970:341-345/清矢,1983:124;Garfinkel&Wieder,1992:184-187も見よ)。

そうした仕組は、会話や会話者、さらにはその場自体が、その場の構成要素(constituent part: Garfinkel,1967:13,etc.)としてそのつど達成されるという形の「相即性=再帰性reflexivity」を伴っているのだが、しかもそれがエスノメソドログジストの作業(=社会秩序が構成される仕方の克明な記述)がそれ自体「注釈する実践」となって、記述の展開(系列)上に明らかになるものなのである。

(3).調査の概要

調査は全体で首都圏の中学校3校の保健室、養護教諭の事例検討研究会等を含んでおり、1992年10月から1993年8月まで行なった。本発表では1993年4~7月に都内公立中学校保健室で収集した記録の一部を扱っている。

調査では、フィールドワークの手法を用いたが、特に本研究では「注釈する実践」の成り立ち方を記述するため、カセットテープ・ビデオテープに

より収集された会話記録を重視している。

ガーフィンケル&サックス(1970:342)は、「エスノメソドロジー調査の関心は、詳細な分析を通して、叙述可能な現象が徹頭徹尾、実践的な達成成果であるということを提供すべく方向づけられている」と述べているが、これは社会(秩序)をEMにおいて研究していく(studies in ethnomethodology)際、注釈する実践において・として(in and as)社会(秩序)を記述しているのだという点に密接に関係しているのである。

(4)「相談」を社会的に構成する仕組

分析は、保健室で収集した①養護教諭と来室生徒の相互行為場面、②養護教諭とエスノグラファー(筆者)の相互行為場面のテープ記録(トランスクリプト)を用いて行なった。

問題なのは、②が①を相談として同定していることから、①の相互行為が相談であったように見えてしまうことである。しかし、実際の仕組はそうではない。

本研究では、①と②のそれぞれの会話をその展開に沿ってEM的に記述・分析することで次に示す知見を得た。

すなわち、②において相談として叙述されなければ、①の出来事は相談としては社会的に構成されていないということである。①では、①の場の構成要素である「会話者の会話」が、①の場の構成要素である「会話者」に対して、①の場の構成要素である注釈する実践として呈示しているのは、①の場が「相談」であるということではなく、休み時間に身長を計ろうとして来室した生徒と養護教諭のやり取りだということである。

むしろ、①が「相談」であるかどうかということは、②の養護教諭とエスノグラファーとの「相談を叙述する会話」の展開する過程において語られた①を含むいくつかの関連する出来事が、選択的に「相談」という形で結び付いていく中で達成されるのであり、それは②が「相談」を叙述して

「会話者」に対して注釈していく過程で同時進行的に達成される出来事なのである。

◀トランスクリプトと具体的な分析は発表レジュメとしてお配りします▶

【参考文献】

- 朝日新聞 1992年12月29日「「ちょっと保健室」一日30人—文部省初めて実態調査—」
- Garfinkel, H. 1967 *Studies in Ethnomethodology* (chap.1&3)
- Garfinkel, H. & H. Sacks 1970
On formal Structures of practical Actions
- Garfinkel, H. & M. Lynch & E. Livingston 1981
The Work of a Discovering Science Construed with Materials from the Optically Discovered Pulsar
- Garfinkel, H. 1991 Evidence for locally produced, naturally accountable phenomena of order*, logic, reason, meaning, method, etc. in and as of the essential quiddity of immortal ordinary society
- Garfinkel, H. & D. L. Wieder 1992 Two Incommensurable, Asymmetrically Alternate Technology of Social Analysis
- 保健室相談活動調査研究委員会 1992
「保健室利用者調査報告書」(文部省調査報告)
- Lynch, M. 1993 *Scientific practice and ordinary action*
- 大石昌弘&鈴木美智子(編著)1991「実践・問題行動教育大系21 保健室における養護教諭の対応」
- 清矢良崇 1983「社会的相互行為としての初期社会化の様式—しつけ場面におけるカテゴリー化問題」
- Sharrock, W. & R. Watson 1988 *Autonomy among social theories: The incarnation of social structures*
- 椎野信雄 「エスノメソドロジー研究の方針と方法について—ラディカルな秩序*現象の再特定化」(『社会学評論』次号(45巻1号,1993年)掲載予定)
- サドナウ, D. 1967「病院でつくられる死」
- 富山美美子ほか 1992「保健室からの訴え・聞こえますか?子どもたちのSOS」
- 山村賢明 1982「解釈的パラダイムと教育研究—エスノメソドロジーを中心にして—」